

# 技の肖像



素焼きしたタイルの表面にスポイトで釉薬を流し着色する

## スペインタイル職人

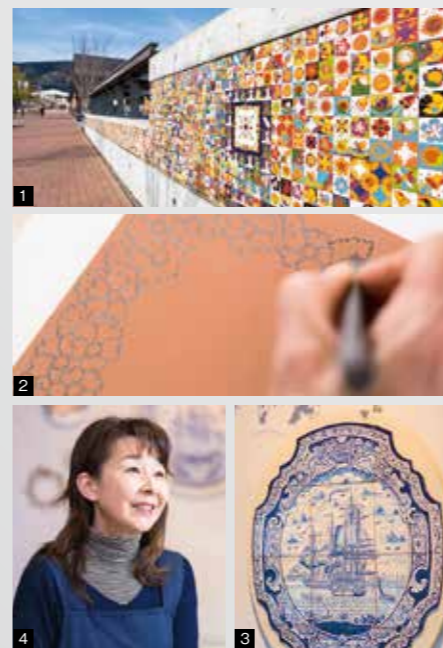
カラフルで装飾性に富んだデザインが魅力のスペインタイル。8世紀頃に北アフリカのイスラム教徒が持ち込んだ、タイル文化がルーツとされる。デザインを施した表面の凹凸が特徴的な「クエルダセカタイル」と、繊細な絵付けが美しい「マヨルカタイル」が代表的な技法で、スペイン独自の文化として発展してきた。

女川町で工房を営む阿部鳴美さんは、スペインタイルの命である色づくりに、注意を払っている。「工房では、18種類くらいの釉薬を調査して、200種類以上の色を使っています。同じ色がばらつかないように、配合の比率をきちんと決めていきます」釉薬とは、陶芸品の表面にかけられ、色や光沢を生み出すために使われるガラス質の材料のこと。タイルを敷き詰めた後に色むらができないように、配合のレシピを明確にしているという。

スペインタイルとの出会いは震災直後。復興のまちづくりに、スペインとの異文化交流の企画が持ち上がり、阿部さんはスペインタイルを紹介された。

早速東京の工房に通い、タイルづくりのノウハウを学んだ。スペインを訪れた際には、タイルが散りばめられた街並みに圧倒された。「震災で灰色になってしまった女川の町を、スペインタイルで明るく彩りたい」と2012年6月に工房を立ち上げた。現在、魚やウミネコ、漁船など女川らしいモチーフを絵柄に取り入れたタイルが、商店街や復興公営住宅など様々な場所で使われている。

「何もない素焼きのタイルに鉛筆で線を描き、様々な色をのせて焼き上げるとカラフルなタイルが完成する。その工程が、まじの復興に重なって見えるんです」と阿部さんは語った。



①女川駅前に続く商店街「シーバルビア女川」の一角に、子どもたちが色づけたスペインタイルが飾られている  
②図例の緑を鉛筆でなぞる ③繊細な絵付けが施される「マヨルカタイル」 ④「タイル文化がまちの新しい産業になり、人々の心も明るくしたいです」と話す阿部鳴美さん

問い合わせ  
みなとまちセラミカ工房

社 鹿部女川町女川 2-7-4  
シーバルビア女川 E-21  
TEL 0225-98-7866  
https://www.ceramika-onagawa.com/



## 地元企業の魅力を見 保護者向けものづくり企業見学会

昨年の11月13日、石巻商業高等学校の保護者らが日京工業株式会社（石巻市）を訪れ、工場見学を行った。同見学会は、高校生の保護者に地元のものづくり企業について知ってもらうと宮城県が実施。参加者は、同社の事業内容や福利厚生、人材育成の取り組みなどの説明に耳を傾けた。



同社の製品が、鉄道や通信などのインフラを支えていることなどを説明する足立幾治社長



参加した保護者らは、業務や製品に関する説明を熱心に聞いていた

は、「幅広い業務に関わることで活躍の場がたくさんあることが中小企業で働く魅力です」と説明した。参加した保護者は、「ものづくりは人づくりという

企業の考え方に魅力を感じました。地元にもこうした素晴らしい技術を持った働きがいのある企業があることを知ることができて良かったです」と話した。

## ものづくりのヒット商品を認定 第12回みやぎ優れモノ認定式

1月17日、仙台国際センター（仙台市）で「第12回みやぎ優れモノ認定式」が行われた。対象は県内で製造されている工業製品のうち、販売開始から1年



北上電設工業株式会社（石巻市）のエコシルフィートシリーズ

以上5年未満の製品。今年は応募があった8件の中から、凌和電子株式会社（仙台市）のマイクロ波加熱装置など4件が認定された。株式会社ガリウム（仙台

市）は、スキー・スノーボード用高性能ワックス「METALLICION」で認定を受けた。従来品と比べ性能が向上したことに加え、コストも抑えることができた点や、同社が国内トップシェア企業として優れた製品を送り出している点が評価された。

認定をされた製品は、みやぎ優れモノマークの使用権や展示会等に出展する費用の支援、販路拡大や品質向上に関する支援などが受けられる。

## 高度熟練技能者からの学びを発表 令和元年度みやぎクラフトマン21事業成果報告会

1月15日、仙台工業高等学校（仙台市）で「みやぎクラフトマン21事業」の成果報告会が行われた。13年目の取組となる今回は、県内12校の高校生が高度熟練

技能者から学んだことなどについて発表した。宮城県工業高等学校（仙台市）の発表では、電気科の生徒が、夏休みに体験した3日間のインターンシッ

プについて報告した。生徒は、株式会社ユアテック人材育成センター（富谷市）で、電気安全管理に関する作業についての講義や、実際の点検作業を体験。「見学や体験を通して、学校で学んだことをより深く理解することができました」と感想を話した。



高度熟練技能者の実技指導を受け、「ものづくりの面白さを学びました」と話す仙台工業高校の生徒



「電気に関する企業に就職して、安全で信頼できる電気の供給に貢献したい」と話す宮城県工業高校の生徒

同事業は、県内の工業系高校と企業などが連携し、ものづくり人材の育成に取り組みむ。報告会では、工業系高校教諭による研修会受講の報告も行われた。

## 技能五輪金メダリストが 世界で披露した高度な技で高校生を魅了

2月13日、気仙沼海洋高等学校に技能五輪金メダリストが訪問し、同校の機械技術科1年の生徒に、講演と実演を行った。

この日、同校を訪れたのは、2018年に開催された技能五輪全国大会の「構造物鉄工」職種で金賞を受賞した牧野寛也選手（奈良県出身・三菱重工業株式会社所属）。講演では、技能



材料を見せながら加工のコツを生徒に説明する牧野寛也選手

国際大会で敢闘賞（5位）を受賞したことなどについて説明した。これまでの選手生活を振り返り、牧野選手は、「支えてくださった多くの人への感謝の気持ちと、何事も諦めない気持ちで頑張ることができました。みなさんもこの2つを大切にしてください」と生徒に熱いメッセージを伝えた。



全国大会の課題と同じ曲げ加工を披露する牧野選手を、生徒は食い入るように見ていた